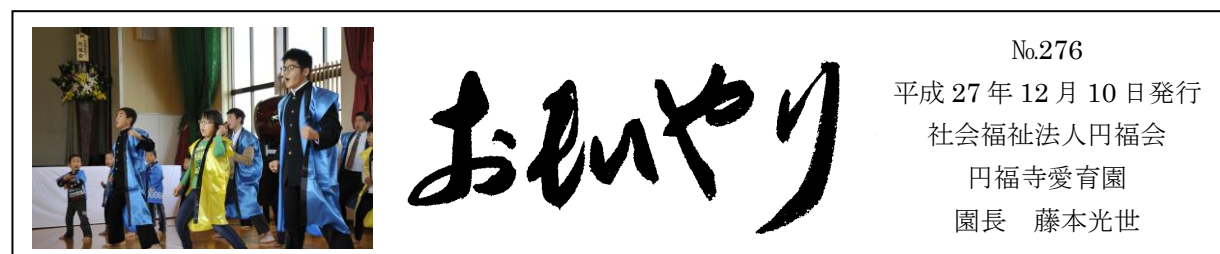


11月29日初代園長先生七回忌に子どもたちのソーランが天まで届きました。



信州大学工学部合格

園長 藤本光世

11月26日、職員会が終わって、29日の初代園長七回忌の会場設営の打ち合わせを、体育館で行っていると、青谷副園長が髪を振り乱し歓喜の表情で『合格しました、合格しました』と叫んで入ってきた。そうだ、今日の4時にM君の信州大学推薦入試の発表があったのだ。思い出した。私は、それは知っていたのだが、あまり気かけるとなんだか不合格になってしまいそうで、心の外に置いていた。それに、これまでの愛育園の児童を思うと、彼の三年間の五段階平均評定は、4.7程度はあったのだが（彼は体育が苦手で、それが評定平均を落としていた）合格には不安があった。合格は夢のように思っていた。倍率も高かった。

国立大学合格。本当だろうか。受験番号を教えてもらった。信州大学のホームページの工学部推薦入試の合格者受験番号一覧の電子情報システム工学科の職業学科等対象の9名の合格者の中にその番号があった。受験番号は間違っていないだろうか。夢ではないだろうか。半信半疑の状況から、次第に喜びが湧きあがってきた。凄いことだ。大変なことだ。円福寺愛育園創設以来だ。当園の養育力の高まりが事実で表れた。これまで外部からあったさまざまな攻撃に対して、養育力の高さを事実で示すことができた。そんなこんなが一気に心に表れて、私は嬉しさでいっぱいになった。

一般的に児童養護施設の児童の学力はどうなのだろうか。私がこの仕事に就いて以来、中学三年生のほとんどが、五教科合計で百点に満たない状況であった。「どうせ俺なんて。」「どうせ私なんて。」「無理！無理！」こうして、エネルギーを自分の将来のために使うのではなくて、職員への反抗に使う。園の中ではやりたい放題。小さな子をいじめ、圧力をかけ、朝は起きず、おまいりには出ず、遅れて食堂に入り、好きなものだけを食べて、嫌いなものは残し、捨て、学校には遅刻して行き、あるいは行かず、夜は12時過ぎまで起きていて寝ない。ガクランを着て羽振りを利用させ、茶髪、ピアス、カラコンなど服装もやりたい放題。下足で体育館に上がり、小さい子がいてもドラムをかきならす。これでは、勉強になど向かうはずがない。小さな子はそのような年長児を見ているので、大きくなったら自分もあのようになろうと、悪循環。だから、この2年間は中退者がいなくなり、高校を卒業させることができるようになったものの、11人中で進学したのは1人だけ。その1人も5月に中退してしまった。

この連鎖を断つのに、どれくらいエネルギーがいるか。どのくらい苦勞であるか。児童を指導で

きず、見て見ぬふりをする職員の悪を指摘・指導すると、自分を改善できない悪い職員が辞めていく（園に辞めさせられたと言う）。辞めた職員は指導を恨みに思って、事実を知ろうとしない関係者を巻き込んで園を攻撃する。たとえば、虚偽の虐待通告をする。上部機関からどうして、愛育園にはこんなにも虐待通告があるのかと言われる。どうして愛育園はそんなに職員が辞めていくのかと説明を求められる。そんなことは説明しても分かってもらえない。児童の事実で示すしかない。そのくらい厳しい悪と闘って今の愛育園はある。

このような悪の連鎖を断ち切って、養育力が高まり、児童の生活が改善し、児童全員が学校に進



信州大学工学部に合格しました。

んで登校し、多くの児童が皆勤し、進んで学習に取り組むようになった結果が信州大学工学部合格の朗報となった。だから、これは彼の努力はもちろんであるが、愛育園に向学の気風の醸成した職員の力と、夢の実現に努力し始めた大勢の子ども達が背後にあって、実現したのである。だから、私はものすごく嬉しかった。

理事のフレックス会長の矢島様に喜びの電話をした。前日に七回忌の御挨拶のお願いに行っただけであった。矢島様は『本当かい。そりゃあたまげたなあ。凄いなあ。』そう言って喜んでいただいた。当園の最大の理解者である。

この日彼は、自分で何度も合格発表の掲示を見に行き、受験番号を何度も照らし合わせ、合格したことを確認して6時30分過ぎ

に園に戻ってきた。私はその夜に会合があったのだが、彼に

『おめでとう』を言いたくて、6時40分ころ園に帰った。子

ども達も彼も食堂で夕食をとっていた。彼に『おめでとう』と握手して、私は思わず泣き出してしまっていた。そのくらい嬉しかった。子ども達は、園長先生どうして泣き出してしまったのだろうと、驚いたと思う。でも、私の真摯な感情は子ども達に伝わった。小学校4年生の男の子が『僕も大学へ行く』と私の前で行った。中学生は自分も大学に行ける、いや行くと、勇気を持った。免許取得を目指している稲荷山養護学校に通う児童は『絶対に免許をとる』と職員に誓ってくれた。凄い効果だ。円福寺愛育園の養育はこれからだ。もっともっと凄い立派な子どもが生まれる。私はそれを確信している。

（私は、これは仏さま（父）がもたらしてくれたのかと思っている。父は、いつも愛育園を見守ってくれている。だから七回忌の祭事に報告しなさいと、その数日前に朗報をもたらしてくれた。彼は青谷副園長の指導を良く受け入れて、毎朝のおまいりに心をこめて参加していた。それが、仏さまに伝わった。七回忌の祭事で、彼はおいでいただいた大勢の皆様、信州大学合格の朗報を自分の口から伝えることができた。何と素晴らしいことだろう。渡邊理事さまもあいさつの中で触れていた。私も、青谷副園長も報告の中で触れた。そうできるように、父が仕組んでくれた。

私はそう思っている。)

初代園長七回忌法要を終えて

副園長 青谷 幸治

1月29日、初代園長七回忌法要が行われました。この法要は、おっちゃんに子どもたちの養育の実践をご報告する場であり、子どもたちの日ごろの頑張りを来賓の方にもお見せする場でもありました。子どもたちの発表を含め1ヶ月前から準備を進めてきました。



子どもたちには2つのことを言い続けてきました。ひとつは、やりたいこととやりたくないことを分けて、何でも目の前にあるものは

必死に取り組んでみる。もうひとつは法要はしめやかに行われるものであるが、おっちゃんには子どもたちに元気よく一生懸命やる姿を見たいと望んでいるので、法要の中のお参りや発表（ソーラン、歌）も思いっきり派手にやろうと話しました。

子どもそれぞれに役割分担も決め、積極的にやってくれるか心配をしましたが当日も自分の持ち場を責任もって取り組んでくれました。誰一人として手を抜く子がいず、職員の手足りないところにすーっと入りテーブルやイス、弁当を配る、そして法要後の片づけまで全てやってくれました。子どもたちがいなければ130名近い参列者におもてないしすることはできませんでした。



ソーランや歌の発表も迫力あり来賓の方々に感動していただけたと思います。

おっちゃんも天国で子どもたちの様子を見て喜んでることと思います。

ご来賓の皆様方、お忙しい中ご参列いただき誠にありがとうございました。富澤先生を中心に当日まで子どもと一緒に準備に励んでくれた先生方ありがとうございました。

そして、子どもたちの堂々とした姿を誇りに思います。子どもたちありがとう。

初代園長先生祭事

まごころ・そよかぜホーム長 石崎早織

1月29日、とても良い天気の中初代園長先生の七回忌が行われました。当日の朝子ども達の

お参りの様子を見ると、いつもより大きな声のお経が談話室に溢れ、声だけ聞いてもこの日に向けての気持ちがとても伝わってきました。七回忌では子ども達の発表の時間がありました。何週間も前からソーラン節や贈る言葉の踊りを練習し、「世界が一つになるまで」の歌の練習をしてきました。ほぼ毎日練習していましたので、日に日に上達していく姿や、子ども自身も上達していく事への喜びを感じながら練習に取り組んでいました。

初代園長先生を知っている児童がだんだん減ってはきていますが、知らないから関係ないという考えの児童はまったくなく、頑張っている姿を伝えたい、見てもらいたいという気持ちがとても伝わってきました。それは先ほども書きましたが、お参りの様子もそうですが、祭事が始まる前のご来賓の方々のお出迎も子どもたちが率先して行ってくれ、慣れないながらも一生懸命席をご案内してくれたり、スリッパを準備してくれたり、机の準備からお弁当の配膳全てにおいて、本当に気持ちのこもった子ども達の姿が溢れ出ていました。



子ども達一つ一つの、一生懸命な姿がしっかり初代園長先生に伝わっていただければ嬉しいです。また今回たくさんのご来賓の方々がお越しくださいました。中々子ども達の日頃の生活の様子や、頑張っている姿をお見せする事はできませんが、今回七回忌を通して、たくさんの方々に子ども達の頑張っている姿をお見せることが出来たのも私自身嬉しく感じています。

これからも円福寺愛育園の子ども達をもっともっとよくなるよう、初代園長先生の想いや願いを感じながら頑張っていきたいと思えます。

初代園長七回忌祭事

あおぞらホーム長 富澤正樹

11月29日、初代園長先生の七回忌祭事が行われました。

当日は沢山の方がお見えになりまして、この機会にまた1つ子供達は成長し、その姿をご報告する事ができました。

祭事は3部構成で、第1部は職員と児童の作文報告と発表報告、第2部は法要、第3部は昼食会となっていましたが、合間で椅子を並べ替えたり、新たに机を出したりしなければならず、大がかりな準備と練習が必要でした。パイプ椅子を190脚、机を60台。これを迅速にセッティングして、椅子には正確に名札を貼り付け、机にはテーブルクロスをかける。中高生や小学生高学年と打ち合わせと練習を繰り返しました。

また、発表では、昨年の愛育園祭で発表した事をきっかけに、愛育園の名物になりつつある「ソーラン節」を披露しましたが、以前までは、小学生と中高生男子と職員のみ参加でしたが、今回は、中高生女子と幼児さんも加わって、総勢44人で踊りました。

今までやっていたソーラン節にポジション移動などのアレンジを加えて、毎日、練習を行いました。

た。

私は、初代園長先生に報告したいと思うのは、子ども達のこういった姿です。準備でも練習でも、長時間、あるいは長期間できるのです。以前では、わかりやすく結果の出る事や、すぐに成果を感じられる事にしか取り組もうとせず、そうでないと、必ず途中で投げ出し、ふざけ出し、最後の文句は決まって「こんなのやっても意味ないし」でした。

粘り強く、イメージしづらいゴールをそれでもなんとかイメージして、気持ちが切れそうな時には、周りで頑張る子の姿を見て持ち直して、と、懸命に取り組む姿が見られました。七回忌だからと、初代園長先生の前で、背伸びをして子供たちが特別に頑張った訳でもなく、また、もちろん強制したわけでもなく、子ども達が当たり前的事として取り組むその姿が、初代園長先生に見せる事ができて嬉しかったです。

当日の子ども達も本当に素晴らしかったです。本当にありがたい機会でした。

ソーラン節の発表は、100人以上の大勢の前で、しかも、子ども達にとっては普段、馴染みのない方々でしたので、子ども達の緊張はよほどのものだったかと思います。それでも堂々と踊り切り、その後のダンスや歌も精一杯にできました。



机出しと椅子並べや食事の配膳など、役割分担を決めて臨んだものの当日になってみると、思わぬ所で抜けてしまう部分があったのですが、機転を利かして、素早くフォローに入ったり、与えられた以上の事をやろうとする子ども達がたくさんいました。

子供の変化を改めて感じ、これからも、愛育園を創設した初代園長先生の精神を私自身が深く理解して、子ども達の成長と自立を支えていきたいと思った七回忌祭事となりました。

七回忌報告 信州大学に合格しました。 M. N

まずは、ご報告からさせていただきます。先日 26 日、僕は念願であった信州大学合格の夢を果たす事ができました。

おっさんの七回忌に、この報告ができる事をとても嬉しく、誇りに思っています。

この結果は決して自分一人の力で出せたわけではありません。というよりも、そもそも、信大進学という夢を持つこと自体一人ではできなかつたと思います。

僕が愛育園に来た小学 2 年生の時、園はとても荒れていました。夢に向かって一心不乱に頑張れる環境ではありませんでした。ですが、4 年程前から、園の雰囲気は変わってきました。規則正しく生活する中で、自分の将来について考える時間がしっかりとれる様になりました。夢を語る事が恥ずかしくない環境で、真っ直ぐに夢に向える場所になりました。これは、自信の無かつた自分にと

って、本当に救いでした。

また、信大進学という夢を持てた後も、何度も、何度も、挫けそうになったのですが、多くの方が支えてくれました。壁はいくつもありました。学力差、経済面など、絶対に乗り越えられないと感じていました。ですが、担当である青谷先生が、前向きになれる言葉を何度となくかけてくれ、進学にかかる費用についても、あらゆる方法を提案してくれました。コミュニケーションをとる事が苦手な僕が、一步を踏み出して、進学費用を貯める為のアルバイトを続ける事ができたのも、夢に向う、強い意志を植え付けてくれたからだと思います。また、青谷先生だけでなく、ホームの先生や、園で生活している皆までもが、僕を応援してくれました。園長先生は、僕の合格を大泣きして喜んでくれました。

夢を持つ事の大切さや、夢をあきらめなくてよいという事を、僕は、僕をあきらめないで見てくれた園の先生方に教そわりました。僕は、ようやく自分自身を誇れるようになりました。自分自身で切り開いた道をこれからも更に更に、突き進んでいきたいと思っています。

愛育園を作って下さったおっさんに、心から感謝をして、僕の報告を終えたいと思います。ありがとうございました。

七回忌報告 玉姫殿に就職します。 M. S

私は坂城高校に通っている高校三年生です。私は 3 年間生徒会に入り、現在は生活整備の委員長も任されています。またアルバイトも現在二つ掛け持ちしており、教習所にも通い毎日がとても充実していて楽しいです。しかし、私が今こうして充実した生活や、目標に向かって頑張れるのも青谷先生や石崎先生、富澤先生の支えがあったからです。

私は中学 3 年生の時に円福寺愛育園に戻ってきました。当時の私は、自分に自信がなく素直になれず、反抗ばかりしていました。本当はこんなひどい言葉が言いたいわけではなく、いつも言ってしまった後に後悔していました。又私はマイナス思考な為、周りに気を使わせていました。そんな中、青谷先生は私と話をする時に、いつも目標を作りなさいと言いました。でも何を目標にしたらよいのかわからず、ますますモヤモヤするばかりでした。そんなある日私はテストで今まで取った事のない高得点を取りました。順位は学年 2 位。一位とは本当に僅差でした。私自身ビックリし、自分でもこんな高得点を取る事ができるのかと思いました。私は今まで勉強は嫌いでしたが、この日から学年一位になる事が私の目標になりました。けれど次のテストでも一位になる事が出来ず、頑張りが足りないのかとがっかりしました。でも青谷先生は褒めてくれ「次は頑張ろう」と励ましたくれました。だから私は諦めることなく頑張りました。その結果がオール 5 を取る事が出来ました。この成績を見た時本当に頑張って良かったなと嬉し泣きました。園に帰って青谷先生達に見せると想像以上に喜んでくれました。また園長先生は嬉し泣きまでしてくれました。頑張るってすごい事だなと感動しました。けれど私が一言「でも坂城高校だからな・・・」と言った時、石崎先生が「学校がどこだとか関係なく、これはMが頑張った結果なんだから、もっと自信を持って

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

いいんだよ」と言ってくれました。その言葉で自身が持てるようになりました。生徒会では二年生の時は生活整備の副委員長を任されました。暑い日でも寒い日でも毎日ゴミステーションに立ち、皆が持ってくるゴミを分別していました。生活整美の仕事はとても大変で、ゴミも臭くとても嫌でした。その事を青谷先生に話すと、「人が嫌がることも進んでやることで周りの人が評価してくれ、好かれる人になるんだよ」と教えてくれました。だから私は汚いとか、臭いというのは止め、どんなゴミでも一生懸命分別するようにしました。その頑張りが伝わったのか、私が3年生になった時今度は生活整美の委員長を任されました。学校の先生や友達からは大変だねと言われましたが、私は任されたことにとっても喜びを感じました。放課後はぞうきんがけを始めました。先生方にも「ありがとう」など言われるようになり、とてもやりがいを感じています。

こうして青谷先生にアドバイスを貰いながら石崎先生に背中を押してもらいながら。今に近づく事が出来ました。けれど私はまだ素直ではありませんでした。何か辛い事があっても先生に相談することが出来ず、現実から目を背けていました。けれど私は今素直に自分の気持ちを話す事が出来るようになりました。それは富澤先生のおかげです。富澤先生とは普段あまり話す機会が少なかったのですが、なぜか私の本音を話せる方法を知っていました。その方法を教えてもらったおかげで、自分の気持ちを言うようになりました。その為先生達と話す時間も増え自然と笑顔で過ごせる日が増えてきました。



青谷先生とも将来の話をする事も増え、やるか、やらないかの選択に迷ったら、やるかやるかしかないってこと。できないと考えるより、自分にしかできないと考える事、本当に自分にプラスになる話をたくさんしてくれ、気持ちも前向きに変わり、一歩踏み出すことが出来ました。

少しずつ変わった私を園長先生は見ている下さり、就職先を紹介してくれました。そこが4月から働かせて頂くことになった、上田市の玉姫殿です。私は小さい頃から玉姫殿の前を通るたびに「あんなお城に住みたい!!」と言っていたくらい憧れていましたので、まさかそんな場所に就職できるなど夢にも思わず、本当に嬉しかったです。ただ結婚式場で働くという事は、お客様の一生に一度の思い出にしないではいけません。思いやりの心を持ち、心を込めて働く事が大切だと思いました。この事を気づかせて頂いた先生方に感謝をし、残りの愛育園生活が有意義になるよう過ごしていきたいです。私はこの円福寺愛育園があって本当に良かったです。愛育園をつくってくれてありがとうございます。おっちゃん。

須坂マラソン・安曇野リレーマラソン まごころ・そよかぜホーム長 石崎早織

今回初めて外部のマラソン大会に参加してきました。須坂マラソンは一人一人のタイムを競いましたが、安曇野マラソンは42.195キロを最大10人でリレー方式で行い完走するというものでした。

(平成27年12月10日発行 月刊「円福」473号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

42.195キロと聞くと、とてつもなく長い距離に感じましたが、4時間以内で完走しないと記録が残らないと聞きましたので、これはみんなで協力して絶対完走しなくては!!と思いました。当日愛育園から行ったのは子ども7名職員2名です。メンバーは中高生から選抜しましたが、その中にはマラソンが苦手な児童もいました。私もマラソンは得意な方ではありませんが、とにかく自分の出来ることを一生懸命やって一緒に頑張ろうと話をして、42.195キロがスタートしました。一周が約1.5キロ。一人平均3~4周走る計算になります。事前に走る順番を決め一人目がスタートしました。私は3番目に走る予定でしたが、自分の順番が近づいてくるたびにとても緊張しました。子どもの気持ちが本当によくわかりました。けどもう走るしかありません。コースが思いのほかきつく、途中思うように足が上がりなくなりましたが、ここで遅くなった子どもに迷惑がかかると思いとにかく必死でした。なんとかタスキを子どもに渡すことができ、まずは一安心でした。そのあとはみんなのサポートに回りましたが、私が走り終わった子に飲み物を渡そうとすると、スタンバイしている子が進んで飲み物を渡してくれたり、お互い声を掛け合いながら励ましあったり、本当に良い雰囲気でした。園内では中々見られない子どもの姿だっように感じます。また一人3周は最低でも走らなくてはいけません、私が入れない分、皆が引き受けてくれ多い子で7周走った子もいました。子どもの力の凄さを改めて感じました。他の子も一周、二周と重ねているのに、タイムはほとんど変わらず、早くタスキを渡さなくてはという使命感があり、それに答えて次のランナーも早く走る。そういったみんなの努力がしっかり形に出て3時間17分で見事完走することが出来ました。みんなの力が一つになった結果がしっかり出て、みんなで喜び合いました。また今までは施設の中だけの挑戦しかありませんでしたが、今回2つのマラソン大会に参加し、子どももいい刺激を貰ったように感じます。もっと早く走れるようになりたい、来年も出たい、そんな言葉が子ども達から聞かれ、視野ももっと広げ、色々な場所で挑戦させることがどれほど大切かも知ることが出来ました。



竜の里須坂健康マラソン、あずみのリレーマラソン あおぞらホーム長 富沢正樹

去る10月、2つのマラソン大会に参加してきました。1つは「竜の里須坂健康マラソン」。もう1つは「あずみのリレーマラソン」です。

愛育園の児童は、「マラソン」を頑張れる子がとても多いです。施設運動会では、みんな素晴らしい成績を収めました。それも、一か月間の練習を全員が意欲的に取り組んだ結果でした。「マラソン」が目標になり、日々の生活が向上していく子がたくさんいました。

今回のマラソン大会の参加は、「頑張っている子達に、もっと大きな舞台を用意したら、もっと良くなる」と青谷副園長先生からアイデアを頂いた事から決まりました。

「竜の里須坂健康マラソン」は、マラソンが得意で施設運動会で一位になったKくんが、10キ

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

ロコースを走りました。昔から、マラソンを得意としていた K くんですが、参加者の中にはたくさんの強者がいて、入賞を目指したものの 27 位でした。そんな K くん感想は「もう少しやれるとおもったんだけどなあ」でした。他の子も、一生懸命に走り、必死にゴールしましたが、小学生女子 2.5 キロの部で小学 5 年の H さんが 13 位入るのがやっとでした。どの子も「自分はまだまだなんだなあ」という悔しさと、「でも、あきらめなかった」という達成感を感じているようでした。悔しがれる事、あきらめない事。この二つを同時に出来るようになった事に、私はとても成長を感じました。

「あずみのリレーマラソン」は一本のタスキをみんなで繋いで競うチーム戦でした。42.195 キロをみんなで分担して走ります。こちらにもまた、実業団の様なチームもたくさん参加しておりましたが、物怖じすることなく、堂々と走り切りました。リレー方式のマラソンは、みんな初めてだったのですが、みんな、1 人で走っている時よりも、必死に走っている様に見え、仲間の為に頑張る姿がとても印象的でした。特に今年中学生になって、陸上部に入部したある女の子は、普段とは全く顔つきが違い、積極的に何度も走り、本当に頼もしい存在でした。以前までは、運動が苦手で、些細な事でもいじけて泣いてしまっていたのに、マラソンでよっぽど自信をつけたのだなあ胸を打たれました。

私は、マラソンを頑張れるという事は本当に大きな力と感じております。我慢強く、最後までやり切る力がつくからです。七回忌の法要でもその力は発揮されました。

今後も、児童の目標となるマラソン大会を多く見つけ、積極的に参加していきたいと思えます。

須坂マラソンに参加して

私は初めて須坂マラソンに参加しました。2.5 キロは運動会の練習の時に 3 キロ走っていたので楽かなと思っていましたが、ガタガタ道だった為 2.5 キロでもきつかったです。でも 13 位に慣れたのでとても嬉しかったです。来年はもっと良い成績が残せるよう頑張ります。(小 5 H・W)

安曇野リレーマラソン

10 月 31 日に安曇野リレーマラソンがありました。42.195 キロという長い距離を走ると聞き最初は正直やりたくない気持ちが強かったです。また本番に向け練習もしなかった為、とても不安な状態で当日を迎えました。実際走ってみると不安や緊張は無くなったけど、予想以上のきつい道のりで呼吸が整わず大変でした。それでもチームの中で何周も走って頑張ってくれる人がいることを考えると、休んではいられず、参加したからには必ず完走したかったので頑張る事が出来ました。最後の一人アンカーがゴールのテープを切ると共にみんなでゴールをしました。足が痛いことも呼吸が荒れていたのも忘れ、完走することが出来た！！と思うだけで胸がいっぱいになりました。この経験から学んだことはやらないよりやった方がいいと思えた事、嫌なことから逃げて後悔するよりも達成感を得て良かったと皆で思える方が何倍も良いと感じました。

また次も走る機会があれば挑戦してみたいです。(中 2 R・A)

(平成 27 年 12 月 10 日発行 月刊「円福」473 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可)

富澤 t から「マラソン大会に出ない？」と言われた時最初の感想は「嫌だ。無理。走れない。」でした。小学校の低学年の頃から運動をすることが大嫌いだった私は、「どうせみんなの足を引っ張るから・・・」とか「私なんか」とマイナスな方向へ考えるばかりで逃げようとしていました。ですが富澤先生は「変わるきっかけになると思うよ」と言われ少し悩みましたが「走ってみます」と言いました。きっと何か変わるかもしれない、やったことのない事にも挑み走ることにマイナ方向へ考えなくなるかもしれないと思いました。当日私は 2 周、つまり 3 キロを走りました。少しでも早く次の人にタスキを渡したいと思い、走りました。「歩けたら楽なのに」なんて事は思いませんでした。皆が早くタスキを渡したいという気持ちが伝わってきました。タスキの存在はとても重いものでした。皆が走り終わった時すぐすごく嬉しかったです。あんなにできない、やりたくないと思っていたのに、皆がいるだけでこんなにも自分の力が引き出されるのかと思ひ感動しました。この大会は私にとってとても良い経験になりました。走ることへの苦手意識がなくなって、皆と協力して大変な事を乗り越えられたのはとても達成感があり、充実していました。来年も参加したいです。(中 3 S・Y)

竜の里 須坂健康マラソン

10 月 18 日に竜の里須坂健康マラソンに参加しました。今まで、運動会などでマラソンに出た事はあるのですが、こういう大会に出るのは初めてでした。何故か、緊張せず落ち着いて臨むことができました。部門ごとに分かれて走り、僕は、中学生 5 キロの部に参加しました。

走りはじめると、周りの人はすごい勢いで走りだし、スタートに出遅れた僕は、あっという間に差が開いてしまいました。ですが、後半からはスピードに乗って走る事ができ、どんどん前の人を越すことができました。来年もまた出場できたら、今回の記録を上回れるように、練習をして頑張りたいです。(中 3 H.A)

あずみのリレーマラソン

42.195 キロをみんなでリレーして走りました。僕は 4 時間以内に走りたいと思っていました。チームの為に頑張らなければと周回数を増やして、1 周 1.5 キロのコースを 7 周して 10.5 キロ走りました。最初の 1、2 周は良かったけれど、その後、足が痛くなってしまいました。仲間に「大丈夫？変わるよ？」と声をかけてもらいましたが、僕は「チームの中には走るのが苦手な人もいて、それでも走ってくれているんだから頑張らなきゃ」と思い、7 周を走り切りました。みんなでゴールした時の記録は 3 時間 17 分でした。自信がなくても参加を決意してくれた人がいたおかげで大会に参加でき、目標の 4 時間以内を切れて本当にうれしかったです。マラソンは、速い遅いは関係なく、自分自身がどこまで頑張れるかが一番大切です。(高 3 O.K)

スペースがなくなり、11 月のおもいやりは省略させていただきました。お許してください。





さつまいもの活動

たくさん楽しみました♪



≪ さつまいもを掘ろう! ≫

今年度の園内保育の最後の収穫物は、さつまいもでした。10/29、青木先生の指導のもと、移植ゴテをお借りしてさつまいも掘りをしました。大事にさつまいもを傷つけないように、周りの土を移植ゴテや手を使ってかき分けました。はじめは要領もつかぬ、時間もかかりましたが、一株のさつまいもを掘り起すと、その大きさにテンションが上がった子どもたちの目は輝き、やる気に拍手がかわりました。

今年は、大きなさつまいもがたくさん採れ、掘るたびに「おほいもだあ!!」「ほ、歓声がありちりちり上がりましょ!!」

11月29日、初代園長先生の七回急法要が行われました。
園内保育では、初代園長先生の著書の一つである『おしょうさまの愛のこぼれ』より、少しずつではありますが、その言葉を覚え、みんなで心をそろえて唱えています。つい先日、その中にある「愛のこぼれに花が咲く」とはどういうことだろうと子どもたちに聞いてみました。すると、Sくんが「ハッ〜という感じさ」とニコニコして答えてくれました。また、「ありがとう」「ごろうさん」という言葉はどんな気持ちになるかな?と聞くと、「言われたら嬉しい」「言った人も嬉しい」「まわりで聞いた人も嬉しい気持ちになる」との答えが返ってきました。子どもだけでなく保育者にとっても、この『愛のこぼれ』からの学びは多く、一人ひとりが自分の普段の行いに生かしていくことが大切だと実感した今日この頃です。

☆ 12月のねらい ☆

- ・ ゲーム遊びやルールのある運動遊びを通してルールを守ることや、友だちのかかわり方を学ぶ。
- ・ 歌や合奏の練習をしたり、クリスマス飾りの制作をして、クリスマス会に期待をもつ。
- ・ 年賀状作りや掃除をして、新年を迎える準備をする。

☆ 12月の行事 ☆

- ・ 12月生まれ誕生会 ・ クリスマス会
- ・ 2学期終業式

🗨️ とんぼ作り 🗨️

今回は、保育者が材料をそろえておくのではなく、子どもたちと一緒に「どうやって羽を作るか、意見を出し合って決めました。③「何かを羽の形に切ったらどお?」「いいものないか探してみる?」④「お部屋でもお外でもいいよね!」⑤「うん」「あ、葉っぱは!」⑥「いいねー」と全員一致で葉っぱを羽に見立てて作ることになりました。トンボの羽の数は?大きさは?と、じっくり図鑑を確かめてから葉っぱを探しに行き、「大きすぎる」「この色じゃな〜い」などと真剣に選びました。葉っぱが破れないようにテープで覆い、体につけてみる〜本物みたい!自分たちで考えた作品は特別だったようで、完成するとすぐに飛ばして見せてくれました。

*** **

防犯指導

11月19日、避難訓練のついでに防犯指導を行いました。危険に気付き、約束を守って安全に過ごしてほしいと思います。

*** **



≪ さつまいもの絵を描こう! ≫

さつまいも掘りの翌日、さつまいもの観察画を描きました。1人1本ずつお気に入りのさつまいもを選び、そのさつまいもの観察をしてお金の具を混ぜ、自分だけの色を作りました。再び観察をして形をクレヨンで描いたら、さきほどのお金の具の出番です。丁寧にお金の具で色をつけると、さつまいもの観察画の完成です!

壁面にさつまいも畑ができ、さつまいも掘りの様子が再現されました。

≪ やきいも大会 ≫

11/27には、お待ちかねのやきいも大会が行われました。まだ、さつまいも掘りもしていない頃から「やきいも大会、いつ?」と言っていた子どもたちだけあり、やきいも大会の日は朝からウキウキでした。

登園し、保育者と一緒にさつまいもを包みます。新聞紙やアルミホイルからほみださずよい匂いをつけてクルクル〜。みんな上手にできました。包んださつまいもは、たき火の熾(おき)の中へ...

1つ1つに焼けたさつまいもは、とても甘く、待てました! とばかりに幸せそうにほおぼる子どもたちでした。

